

# 新春のご挨拶



飼料輸出入協議会理事長

田中 大輔

(豊田通商(株) ライフスタイル本部  
アグリサプライチェーン部長)

新年あけましておめでとうございます。旧年中は関係先の皆様方より格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。飼料輸出入協議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

はじめに、2025年12月に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧と地域の再生をお祈りいたします。

2025年を振り返ると、国内外で大きな変化と試練が同居した年でありました。国際情勢では、米国での政策の変化や保護主義的な動きが世界のサプライチェーンにも影響を及ぼす場面があり、米中関係の緊張やウクライナ情勢、欧州・中東情勢の不安定化と相まって地政学リスクの高まりが続いております。また気候変動対策やエネルギー転換の重要性が一段と増す一方で、国際協調の重要性と難しさも改めて認識された年であったと思います。穀物需給については、主要産地での豊作により需

給バランスは比較的落ち着いた傾向にありますが、米中対立に伴う農産物貿易への影響など、不安定要素も多く不確実性は依然として残っております。

国内に目を向けますと、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が最終的に来場者数約2900万人、運営収支の大幅黒字達成と大成功を収め、経済効果と国際的地位の向上などの点で大きな成果を上げ、10月には日経平均株価が史上初めて5万円台を付けました。ノーベル賞では、生理学・医学賞に坂口志文氏と化学賞に北川進氏が同年ダブル受賞の快挙となり、スポーツ面では大谷翔平選手が大活躍し、ワールドシリーズ連覇と3年連続4度目のリーグMVP獲得、山下美夢有選手や西郷真央選手の米女子ツアー・メジャー制覇、世界陸上では村竹ラシッド選手（110mハードル）が5位入賞と13秒の壁を突破し、明るい話題も多い1年であったと思います。一方で、異常気象の頻発、円安進行による原料輸入コストへの影響、設備投資コストの大幅上昇、人手不足による物流網への影響など、多くの課題・難題が顕在化し、引き続きのチャレンジ、対応が必要とされております。

こうした変化の激しい環境下において、微力ではございますが、飼料畜産業界並びに関係官庁の皆様のご指導ご鞭撻を賜りつつ、業界の持続的な発展と安定供給の確保に尽力してまいる所存です。

本年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。十干の「丙（ひのえ、火の陽）」と十二支の「午（うま）」が重なる「丙午（ひのえうま）」に当たり、強いエネルギーで道を切り開く縁起の良い年、力強く前進し新たな挑戦に勢いが生まれる年とされています。この丙午の年にあたり、皆様のみずみずしきご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。